

LED 照射によるコショウランの効率的生産技術の検討

農業革新支援スタッフ【花き】

コショウランの栽培では、施設内の妻面や谷部付近等の光の当たりづらい部分で生育の遅れが発生し、計画的な出荷の妨げとなっています。また、冷房効率を高めるために強い遮光を行う夏期、梅雨期や秋の長雨時は、光量不足による品質低下が生産上の課題となっています。

そこで、総合農業技術センターでは、光不足による花の生育遅延や品質低下の解消を目的に、本年度からLEDを使った補光試験を行っています。

8月には、山梨県花き園芸組合連合会洋ラン部会の生産者を集めた検討会を開催しました。生産者の方々にLED照射効果の確認をしてもらい、その後の意見交換では、現地で使用する場合の問題点や課題についての質問や意見・要望が多く寄せられ、期待の高さが伺われました。

生産現場での導入にはまだ多くの課題もありますが、今後も生産者の意見や要望を聞き取り、現場で使える技術の確立に向けて取り組んでいきます。



オリジナル品種「ブラックキング」の普及に向けて

農業革新支援スタッフ【果樹】

ブドウ「ブラックキング」は、県が育成した紫黒色の四倍体品種で、一粒重は20gを超え着色も優れることから、これまで県内において約16,000本の苗木が配布されています。

これまで「ブラックキング」の短梢剪定における栽培特性は示されていませんでしたが、令和2年度の果樹試験場成果情報において、その特性が明らかにされました。

成果情報では、短梢剪定栽培における1芽剪定と2芽剪定、長梢剪定との比較を行い、栽培特性や果実品質の調査結果と短梢剪定栽培での留意点などが報告されています。

この技術情報を普及することで、オリジナル品種の早期産地化に向けて取り組んでいきます。



安全確認と予防対策で農機の事故を防ぎましょう

春の訪れとともに、農作業が忙しくなり、心配されるのは作業中の事故です。全国では毎年300件以上の死亡事故が発生し尊い命が失われています。昨年は県内でも4件の死亡事故が発生しています。

農作業事故の原因は、山梨県では乗用草刈り機や昇降機などの農業用機械と樹の枝に挟まれる事故や、脚立・高所作業台からの転落事故が多いのが特徴です。

少しの油断が大きな事故を引き起こします。「農作業は焦らず、急がず、慎重に！」を合い言葉に、事故を未然に防ぐ対策と準備に万全を期してください。

凍霜害対策を徹底しましょう

- 3月15日から5月20日までは凍霜害警戒期間となります。
- 農業気象情報は報道機関の天気予報などで入手し、事前対策を徹底しましょう。

「農作物の気象災害に対する技術対策資料」は農業技術課ホームページを参照



山梨県普及センターだより

編集&発行：山梨県農政部農業技術課
〒400-8501 甲府市丸の内一丁目6-1
TEL:055-223-1619 FAX:055-223-1622
<http://www.pref.yamanashi.jp/nougyo-gjt/>
E-mail:nougyo-gjt@pref.yamanashi.lg.jp

No. 52
令和3年3月8日発行

モモせん孔細菌病・ブドウ晩腐病の防除を徹底しましょう!!

大発生した令和元年に続き、昨年も「モモせん孔細菌病」が、県下で発生しました。また、記録的に雨が多かった梅雨の影響を受け、巨峰群品種を中心に「ブドウ晩腐病」の被害が発生しました。これらの病害は発生してからでは防除が難しいため、薬剤散布だけでなく、耕種的防除を組み合わせた総合的な対策が必要です。以下を参考に春からの防除を徹底しましょう。

モモせん孔細菌病

- 春型枝病斑(図1)のある枝は見つけ次第剪除しましょう。目線の高さだけでなく、見えづらい樹冠上部にも注意しましょう。また、展葉や開花が遅い生育不良枝や、芽枯れ・枝枯れ(図2)している枝も併せて剪除します。発病した葉や幼果(図3、4)も伝染源になるので取り除きましょう。
- 果実を感染から守るには袋かけが有効です。雨になるべく当たらないように、薬剤散布後できるだけ速やかに袋をかけましょう。
- 果樹病害虫防除暦(以下、防除暦)に従って薬剤防除を実施しましょう。花弁が見え始める頃(3月中下旬)にボルドー剤を散布し、満開直後からは抗生物質剤を用い、7~10日間隔で定期的に防除します。天候不順が続く場合は追加散布を実施しましょう。



図1 春型枝病斑



図2 枝枯れ



図3 発病葉



図4 発病果

ブドウ晩腐病

- 伝染源となる果梗の切り残し、巻きひげ、犠牲芽剪定で枯れた部分などが残っていないか見直し、剪除しましょう。
- 防除暦に従い、休眠期からの防除を徹底しましょう。
- 病原菌は開花期以降の降雨により伝染するため、花穂や果房を雨にあてないことが重要です。カサ・袋かけは早めに行いましょう。巨峰群品種やシャインマスカットなどでは、第1回目ジベレリン処理後、直ちに口ウ引きのカサをかけましょう(図5)。摘粒などの作業が遅れる場合も、先に仕上げのカサをかけ、果房に雨をあてないようにしてください。また、簡易雨よけ栽培は晩腐病等の病害に有効です(図6)。詳細は果樹試験場の「令和2年度試験研究成果情報」に掲載していますので、ホームページなどで確認して下さい。



図5 口ウ引きのカサかけ



図6 簡易雨よけ栽培

モモせん孔細菌病やブドウ晩腐病の防除や生態の詳細は、防除暦と併せて、既に各戸へ配布されている「モモせん孔細菌病防除マニュアル」や「ブドウ晩腐病防除マニュアル」をご覧ください。また、防除薬剤はラベルをよく読み、使用時期(収穫前日数)や使用回数などの登録内容を十分に確認してから使用してください。

中北地域普及センター

「インターネット販売をテーマにオンライン研修会を開催しました」

今年度は新型コロナウイルスの感染の広がりにより、農業においても新たな販売方法への転換を求められた年となりました。そこで中北地域普及センターでは、経営・販売に悩む農業者を応援するため、今年2月に「インターネット販売」をテーマにZoomを利用したオンライン研修会を開催しました。

研修会では産直ECサイトを運営する企業の担当者を講師に招き、食品業界の情勢やECサイトの活用方法について学びました。また、実際にインターネット販売を取り入れている先輩農家による事例発表を行いました。

当日は管内の農業者に広くご参加いただき、オンラインでは35名、現地（パブリックビューイング）では8名が参加されました。また、参加した農家からは、新たな販売方法としてECサイトの活用を考える良いきっかけになったと、前向きな感想が得られました。

中北地域普及センターでは、今後も生産者が安定した経営を行えるよう支援を行って参ります。



現地会場（パブリックビューイング）の様子



配信会場の様子

峡南地域普及センター

就農計画の作成に向けた支援

現在、管内で就農に向け、篤農家の下で技術習得に取り組む研修生の中には、所得目標や品目ごとの栽培面積等が具体的に定まっていない方もいます。

そこで当センターでは、就農計画の作成に向けた研修会を開催し、就農後のイメージを具体化する支援を行いました。

研修会では、計画を作成する意義や、収入や経費の試算方法等について講義を行いました。

併せて、県外から新規参入した青年農業士の方から、就農準備から就農後までの経験を話してもらいました。研修生から



講義の様子

からは、「どのくらいの面積から始めたら良いか」、「農地の確保はどのように進めたか」等の質問があがり、「実際の経験に基づいた意見を聞くことが出来てとても参考になった」との声がありました。

その後、実際に計画を作成してもらい、個別指導によりその計画をブラッシュアップしました。

計画を作成することにより、就農までの課題や、研修中にすべきことが明確になりました。今後当センターでは、引き続き就農まで個々の状況に応じた支援を行っていきます。



先輩就農者からのアドバイス

峡東地域普及センター

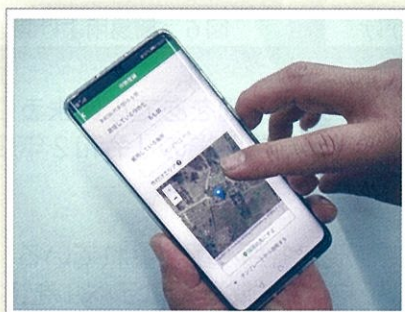
中核的農家の育成に向けた研修会の開催

峡東地域への新規就農者は近年増加傾向にある一方で、高齢化の進展等により、地域農業の中核となる認定農業者は減少傾向にあります。こうした中、峡東地域普及センターでは就農6～10年目の農業者を「産地を支える中核的農家」として育成するため、関係機関と連携する中で経営改善計画の作成と経営発展に向けた取組を支援しています。

今年度は経営能力養成支援として対象者のニーズに応じた研修会の開催を計画し、クラウド型営農管理システムを導入した圃場管理の効率化と、経営者として必要な決算書の作成方法

や確定申告時の注意点等をテーマに開催したところ、参加者の関心と理解度を高めることができました。受講後には「営農管理システムの導入を検討したい」、「早速e-Taxによる確定申告に取り組みたい」といった意見が多数伺えました。

今後も新技術に関する情報提供や農業経営の効率化に向けた研修会を通じ、農業者の経営管理能力の向上を支援していきます。



スマートフォンによる圃場管理（イメージ）



専門家による経営指導

富士・東部地域普及センター

「富士山やさい」の高品質・安定生産に向けた支援

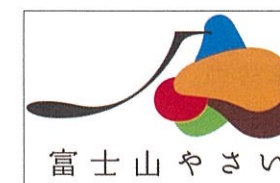
富士山野菜生産者協議会では富士北麓の恵まれた気象条件を活かしてつくられる「富士山やさい」のブランド力向上に向け、生産・販売力の強化に取り組んでいます。会員が生産した「富士山やさい」は農産物直売所や地元のスーパーで販売され、多くの地元消費者や観光客で賑わっています。

普及センターでは、総合農業技術センターや管内JAと連携し、消費者に「富士山やさい」を安心して購入してもらえるよう、品質や出荷規格の統一を支援しています。今年度はトマト、ブロッコリーの栽培指針を作成しました。

栽培指針は、地域の先進農家への聞き取りや実証ほ場で得られた成果を反映し、トマトについては玉割れが少なく、収量性と秀品率の高い品種、ブロッコリーについてはホウ素欠乏対策となる肥料設計とするなど、栽培上の課題に応じた内容となっています。

また、消費者に安心して購入してもらうためには、「富士山やさい」としての統一した規格が必要という会員の要望があったことから、出荷規格づくりにも取り組み、スイートコーン、春まき夏どりタマネギ、富士ナスの出荷規格の作成を支援しました。協議会では来年度より出荷規格に沿った生産物に「富士山やさいシール」を貼付し、販売を実施していきます。その他の主要品目の出荷規格についても順次作成する予定です。

今後も「富士山やさい」の高品質・安定生産に向けた取り組みについて、関係機関と連携しながら支援していきます。



富士山やさいシール



作成した栽培指針